
第5回 最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

日時：平成30年5月31日13時00分～14時00分

場所：新庄市民プラザ 第5研修室、第6研修室

1. 新庄河川事務所長あいさつ

- ご多忙の中、減災対策協議会へご出席賜りありがとうございます。また、平素より新庄河川事務所の事業にご協力賜りましてありがとうございます。
- 5月27日に大石田町で最上川総合水防演習が実施されたが、農繁期の折、最上川中流域の消防団の皆様にも参加いただき無事に終了することができました。重ねてお礼申し上げます。
- 減災対策協議会は平成27年9月の関東・東北豪雨災害など、近年の降雨特性、すなわち局地化、集中化、激甚化を踏まえまして、減災のためのハード対策に加えまして、住民目線のソフト対策を国、県、市町村が一体的に、計画的に推進していくことを目的に、平成28年5月27日に設立されたものであります。
- 関係機関が一体となって最上川中流域の減災の取組を進めていくためのものであります。
- 本日は、規約の改正をお諮りしたいと考えておりますが、規約の改正がなされました折には、本協議会は水防法に定めた法定協議会となります。
- この協議会で意見交換、情報交換を行い、母なる最上川の流域において、さらなる安全対策が推進されることを祈念いたします。

2. 議事

(1) 規約改正について

異議なし。承認。

(2) 取組状況と今後の予定（直轄）

- 資料2-1のP5。气象台では最上川上流で防災教育の取組に参画している。資料の提供やアドバイスなど、气象台ができることもあるので、最上川中流で進めていく中で困ったことなどがあれば、相談していただきたい。

(3) 取組状況と今後の予定（県）

- 資料2-2のP8。危険度分布について補足します。これまでも土砂に関しては危険度情報を出していましたが、昨年度出水期から、浸水害に加えて、中小河川の河川毎の5段階の危険度分布を提供しています。まだ1シーズンではありますが、気象庁と消防庁で検証している。防災対応上効果があること、中小河川の現地確認するトリガーに使えるのではないかと、あるいは、現地の情報と合わせて避難勧告等ができるのではないかと検証結果をとりまとめている。使っていただき、市町村訪問時にご意見等伺いますが、わからないことがあればご質問いただき、課題があればお知らせいただきたい。

-
- 資料 2-1 の P22 の天端舗装に関して、舗装する区間の理由はしっかり整理していただきたい。最上内川は、石名坂頭首工から下流は危険地域となっているが、県区間では天端舗装についてどのような考えているか？
 - 県の管理河川で実施しているところもあるが、管理延長が膨大であることから、危機管理型の天端舗装を進める以前に、河川改修が途中段階の河川が多い状況にある。堤防については、河川の改修を中心に進めているのが現状である。河川改修を進めつつ、堤防舗装が必要であるという市街地区間を中心に河川整備と合わせて堤防舗装を実施している事例がある。最上内川の舗装を今後進めるかどうか言及はできないが、県全体の方向性としては、改修メインの方向で進めていく。

3. その他

- これから大雨の時期を迎えるが、訓練が一番災害を未然に防ぐことになると思う。気象台、国、県、市町村も含めての一斉訓練を実施するのがよいと思うが、いかがでしょうか？
- 個別に水防の訓練を来週（9日）に実施する予定。一斉訓練もそこで実施することを検討したい。消防団は演習と合わせて水防を検討してもらう機会がないので、交流する機会を考えていきたい。
- 情報と通信の訓練も必要ではないかと考えているがいかがか？
- 危機管理型水位計で観測をするのはいいが、観測をやっているが使われなかったとなれば、行政側の話として責任を問われることになってくると思う。危機管理型水位計の使い方を含めて、どのようにやっていくか。
- 気象台からは降水予測が細かいメッシュで出るが、線状降水帯みたいに一気にドカンと降られるので、情報をもろうことによって早めの対応ができると思っている。
- 洪水の危険度分布に関しては10分ごとに更新される。3時間先までの雨量予測を使っている。いつ、薄紫から濃い紫に変わるかというのは3時間の上でのどこかということ。首長さんとのホットラインとか、その前段から担当者レベルで事前情報の共有をしっかりとさせていただく。
- 梅雨の時期を迎えて、排水ポンプ車の活動が多くなることになる。新庄河川、最上広域で排水ポンプ車を設置している。連携・協力ができるような行動が必要になってきている、または主導していただくといった連携が取れるように是非お願いしたい。今までやっているとは思いますが、広域は広域で単体で動いているようなところも見えますので、新庄河川は新庄河川というところがあるので、是非協力してやれるような、技術的にも連携をいただければと思う。
- 排水ポンプ車は最初に手を上げた所に行ってしまうようなところがある。氾濫した状況の情報を素早く上げていただき、調整を図るような対応をしていきたい。
- 平成27年9月10日の豪雨災害で初めて避難勧告を出した。改めて連携の重要性を認識した。どうしようどうしようと思っているときに、気象台の方や県にも来ていただいて、観光のお客さんもいることから早めに判断をする方がいいというアドバイスも頂いて、未だ早いかなと思いながら、4時50分に避難勧告を出した。地域の自主防災組

織、消防団、地域の皆さんに立ち上げていただいて、けが人も出さなかった。今思えば、失敗を恐れない早めに判断という危機管理の対応ができた。

- 釜石の小学校の「つなみてんでんこ」、大川小学校の例などあるが、防災教育、防災意識は極めて大事である。

以上